

就職先60%が民間企業、18%公務員
インターンは就活へ役立った80%
2015年度卒業生アンケート(下)

卒業生アンケートでは、就職活動やインターンシップへの参加についても調査した。卒業後の進路については、「民間企業」が161人(59.9%)、「公務員」49人(18.2%)、「未定」19人(7.1%)。50人程度から回答を得られなかった。

実際に願書を提出し、試験を受けた進路で、有効回答274人のうち最も多かったのが「民間企業」227人、2番目が「公務員(除く教員)」105人、これに「教員」20人となっている。80人弱が重複して進路を模索したことが分かる。

就職活動関連の質問では、企業にエントリー(資料請求)した時期で一番多かったのが、「2013年3月」130人で59.9%を占めていた。次いで「同12月」(32.2%)、「同7月」(7.8%)となっている。

最初に内定が決まった時期は、最も多かったのが「2014年5月」(16.4%)、次いで「同10月」(15.6%)、「同6月」(14.2%)となっている。

エントリーを提出した企業数は、最多が「6~10社」(32.2%)、これに「11社~20社」(28.4%)、「1~5社」(26.1%)となっている。実際に内定した数は、1社が72人(36.7%)、2社46人(23.5%)、3社38人(19.4%)と言う具合である。



公務員については、試験を受けた数は、3つが16人(16.5%)、2つが23人(23.7%)、1つ35人(36.1%)。公務員の合格で民間企業を辞めたかとの質問については、「辞めた」が32人(26.2%)、「辞退していない」90人(73.8%)となっている。これには、不合格などが含まれている。

インターンシップへは、4割に当たる104人が参加したと回答した。就活との関連については、「とても役立った」40人(38.8%)、「一応役立った」42人(40.8%)と回答した。インターンシップの経験が就職活動で威力を発揮していることが分かる。



(終)

(学生委員会；古賀委員長)